厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

抗がん剤治療中止時の医療従事者によるがん患者の意思決定支援プログラムの開発

研究分担者
森雅紀　聖隷三方原病院

研究協力者
藤森麻衣子 国立がん研究センター　社会と健康研究センター　健康支援研究部

研究要旨
再発・転移をきたしたがん患者に、余命を伝える際にどのような言語的・非言語的コミュニケーションをとれば、共感を伝えられるかの実験心理学的研究である。昨年度に行ったがん患者対象の意向調査からは、余命の伝え方に関して平均的な幅だけではなく大きな幅（worst/base case）を伝えること、最善を望みながらも最悪に備えること(hope for the best, prepare for the worst: “hope/prepare”)を伝えることが好まれることが明らかになった。この二者を取り入れた言語的なコミュニケーションの効果と、話す速度を変えた非言語的なコミュニケーションの効果を検証するため Web 上の無作為化比較試験（RCT）を行い、312 名の登録を完遂した。今後解析を進め論文・学会発表を行うとともに、今回確立した方法論と調査で取得した基礎資料を用いることで、再発・転移がん患者の意向に沿った、望ましいコミュニケーション方法を探索していきたい。

A. 研究目的

患者、医療者間の予後に関する話し合いについては、先行研究において2－3割の患者が伝えられることを望んでいないことが示唆されており（Fujimori et al., Psychooncology, 2007; Umezawa et al., Cancer, 2015)、予後について話し合うか否か、どのように伝えるかに関するコンセンサスは存在しない。

そこで本研究では、以下の2点を目的とする。
①予後告知の際に、数字と平均的な幅だけではなく、worst/best case を加えること、“Hope/prepare”の言葉を加えること、またこれら両者を加えることで、より共感が伝えられ、不安が減り、医療者への信頼が増すかどうかを明らかにすること。
②予後告知の際に、予後の情報をゆっくり伝えることは、速く伝えることに比べて、より共感が伝えられ、不安が減り、医療者への信頼が増し、予後に関する理解が増すかどうかを明らかにすること。

B. 研究方法

1)民間モニター業者に登録している成人がん患者を対象にWeb調査を行った。
2) 余命告知を望む再発・転移がんの患者において、どのように言語的・非言語的に余命を告知すると良好なアウトカムが得られるかを検討した。言語的なコミュニケーション方法に関しては、余命告知の台詞を変えた4種類の動画を作成した。非言語的なコミュニケーション方法に関しては、話す速度を変えた動画を2種類の台詞に関して2種類ずつ作成した（計6種類の動画）。

これらの動画は2019年1月に撮影を行った。被験者は無作為に割り付けられ、6種類の動画のうち1種類を視聴する。
3) 台詞の内容は、本研究班の昨年度の研究課題で標準的な余命告知の伝え方（余命の中央値に平均的な幅を加える）に、”worst /best case”, “hope/prepare”を追加することが好まれることが明らかになったため、これらを反映した。
4）主要評価項目は医師の共感5項目、副次的評価項目として、基本感情6項目、不安（0-10）、意思への信頼感（0-10）、アドバンス・ケア・プラニング（ACP）についての意向等を取得した。
5)解析は言語的なコミュニケーション方法の効果に関しては一要因の分散分析、非言語的なコミュニケーション方法の効果に関しては二要因の分散分析を行った。

（倫理面への配慮）
2018 年 11 月　聖隷三方原病院の倫理委員会で本研究が承認された。

C. 研究結果
1)　2019年2月にWeb上で本調査を実施し、312名から回答を得た。
2)　現在解析中である。

D. 考察
余命告知を望む再発・転移がん患者の仮想シナリオにおいて、言語的・非言語的なコミュニケーション方法が医師の共感等のアウトカムに及ぼす影響を調べることを目的とした実験心理学的研究を実施した。モニター業者を用いて、Web 上で患者登録を完遂した。
今年度の成果は、がん患者を対象とした予後告知に関する実験心理学的研究を、Web 上で完遂し、同様の研究の実施体制を確立しえたことである。それには以下のような多様な要因が考えられる。
今後、データの解析、論文化を進め、困難なコミュニケーション場面における指針を提供する予定である。さらに、同様の方法論で再発・転移がん患者における望ましいコミュニケーション方法を探索する。

E. 結論
余命告知を望む再発・転移がん患者の仮想シナリオにおいて、言語的・非言語的コミュニケーションが医師の共感等のアウトカムに及ぼす影響を調べることを目的とした実験心理学的研究を完遂した。今後解析を進め論文・学会発表を行うとともに、今回確立した方法論と調査で取得した基礎資料を用いることで、再発・転移がん患者の意向に沿った、望ましいコミュニケーション方法を探索する。

F. 健康危険情報
特記すべきことなし。

G. 研究発表
1. 論文発表

1. Hui D, Mori M, et al. Automatic referral to standardize palliative care access: an international Delphi survey. Support Care Cancer 26(1):175-180, 2018.
2. Hamano J, Mori M, et al. Prevalence and predictors of conflict in the families of patients with advanced cancer: A nationwide survey of bereaved family members. Psychooncology 27(1):302-308, 2018.
3. Mori M, et al. Acculturation and perception of a good death among Japanese Americans and Japanese living in the United States. J Pain Symptom Manage 55(1):31-38, 2018.
4. Mori M, Fujimori M, et al. Which physicians' behaviors on death pronouncement affect family-perceived physician compassion? A randomized, scripted, video-vignette study. J Pain Symptom Manage 55(2):189-197, 2018.

5. Mori M, et al. What I did for my loved one is more important than whether we talked about death": A nationwide survey of bereaved family members. J Palliat Med 21(3):335-341, 2018.

6. Mori M . Chapter 36 Outcomes Associated with End-of-Life Discussions. Edited by: Hui D, et al. Series Editor: Hochman ME. 50 studies Every Palliative Care Doctor Should Know. OXFORD UNIVERSITY PRESS. USA. 220-226, 2018.

7. Mori M. Chapter 39 Clinical Signs of Impending Death in Cancer Patients. Edited by: Hui D, et al. Series Editor: Hochman ME. 50 studies Every Palliative Care Doctor Should Know. OXFORD UNIVERSITY PRESS. USA. 240-246 2018.

8. Mori M, et al. Validation of the Edmonton Symptom Assessment System: Ascites Modification. J Pain Symptom Manage 55(6):1557-1563, 2018.

9. Mori M, et al. Communication about the impending death of patients with cancer to the family: a nationwide survey. BMJ Support Palliat Care 8(2):221-228, 2018.

10. Imai K, Mori M, et al. Efficacy of two types of palliative sedation therapy defined using intervention protocols: proportional vs. deep sedation. Support Care Cancer 26(6):1763-1771, 2018.

11. Hamano J, Mori M, Uchitomi Y, et al. Talking About Palliative Sedation With the Family: Informed Consent vs. Assent and a Better Framework Explaining Potential Risks. J Pain Symptom Manage 56(3):e5-e8, 2018.

12. Hamano J, Mori M, et al . A combination of routine laboratory findings and vital signs can predict survival of advanced cancer patients without physician evaluation: a fractional polynomial model. Eur J Cancer 105:50-60, 2018.

13. 野里洵子，森雅紀，他．緩和ケアの研修、自己研鑽に関する若手医師の考え：質問紙調査の自由記述の質的分析．Palliative Care Research 13(2):175-179, 2018.

14. 野里洵子， 森雅紀， 他. 緩和ケアを専門としようとしている若手医師の研修, 自己研鑽に対するニーズには何が影響するのか． Palliative Care Research 13(3):297-303, 2018.

15. 森雅紀, 他（企画）. 早期からの緩和ケア コトバハジメ． 緩和ケア 28(1):4,2018.

16. 采野優, 森雅紀, 他.「早期緩和ケア」「オンコロジーと緩和ケアの連携」「がんと診断されたときからの緩和ケア」の違い． 緩和ケア 28(1):5-10,2018.

17. 森田達也, 森雅紀. 落としてはいけない Key Article 第 19 回実臨床でどうしたらいいかわからないことを「心理実験」で明らかにする． 緩和ケア 28(1):56-62,2018.

18. 森雅紀. 用語解説 15 Advance care planning (ACP). Cancer Board of the Breast 4(1):59, 2018.

19. 森雅紀. がん患者さんに対する適切な End of life (EOL) Discussion について. 腫瘍内科 21(4):497-504,2018.

20. 森雅紀. 明るい面に目を向ける 人が生きるのを支える. 緩和ケアの魔法の言葉2 どう声をかけたらいいかわからない時の道標. 緩和ケア 28（6 月増刊号）:2-4, 2018.

21. 森雅紀. 特集 オンコ・ジェネラリスト「がん」に強い総合診療医をめざして～緩和ケアではなく緩和"治療"を. 総合診療 28(9):1236-1239,2018.

22. 森雅紀, 他. 緩和ケア医（身体症状担当医）が診るうつ病～がん医療の現場ではこうしている～.（監修）樋口輝彦,（編集委員）朝田隆,内富庸介, 他. 緩和ケア・支持療法中の患者のこころの最前線 もしも患者に"うつ"を見つけたら Depression Frontier 3. 医療ジャーナル社. 大阪. 13-19, 2018.

23. 森雅紀. 連載 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE3 研究（多施設遺族調査）からの学び～第 9 回 特徴的な集団に関する検討． がん看護 23(7):689-690,2018.

2. 学会発表

1. Mori M. Quality of Death and Dying of Young Adult Patients with Cancer: Analyses of Combined Date from Three Nationwide Surveys among Bereaved Family Members. 10th World Research Congress of the European Association for Palliative Care. 2018.5. Bern.
2. Mori M. Poster number251: How Should Clinicians Explain about the Impending Death of Cancer Patients to the Family? A Nationwide of Bereaved Family Members. 10th World Research Congress of the European Association for Palliative Care. 2018.5. Bern.
3. 森雅紀. 拡大シンポジウム 3：意思決定支援～私たち医療者にできることの具体を議論する～．緩和ケアチームにおける意思決定支援．日本在宅医学会第 20 回記念大会．2018.4. 東京.
4. 東光久，内富庸介，森雅紀． End of Life Discussion の心と術～がん終末期患者の事例検討を通じて～． ACP Japan Chapter Annual Meeting 2018.（米国内科学会日本支部年次総会 2018）．2018.6.京都.
5. 大屋清文，森雅紀，他．緩和ケア Update2018～内科医が知っておきたい 4 領域のエビデンス～． ACP Japan Chapter Annual Meeting 2018.（米国内科学会日本支部年次総会 2018）．2018.6. 京都.
6. 森雅紀，藤森麻衣子，他．口演:死亡確認時にどのように振る舞えば、家族に共感を伝えられるか：ビデオを用いた実験心理学的ランダム化比較試験．第 23 回日本緩和医療学会学術大会．2018.6. 神戸
7. 横道直佑，森雅紀，他． ポスター:難治性悪性腹水に対するトリアムシノロンアセトニド腹腔内投与の効果と安全性の提案. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会．2018.6. 神戸
8. 森雅紀（座長）．シンポジウム 34:アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の本質である「コミュニケーション」のきっかけ作り． 第 23 回日本緩和医療学会学術大会．2018.6. 神戸
9. 森雅紀（座長）．シンポジウム 35:Role of End-of-Life Practice: Treatment withdrawal, palliative sedation, physician-assisted suicide and euthanasia. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会． 2018.6. 神戸
10. Mori M. Future Research in Prognostication: Maximizing Patient Outcomes. What Does the Future Hold? Prognostication in Advanced Cancer and Clinical Decision Making. MASCC/ISOO 2018. 2018.6. Vienna
11. Mori M, Fujimori M, Uchitomi Y, et al. Explicit prognostic disclosure to Asian woman with breast cancer: A randomized scripted video-vignette study (J-SUPPORT 1601) MASCC/ISOO 2018． 2018.6. Vienna
12. Fujimori M, Mori M, Uchitomi Y, et al. The effects of eye contact when disclosing prognosis to women with Breast cancer: A Randomized scripted Video-vignette study (J-SUPPORT 1601) MASCC/ISOO 2018. 2018.6. Vienna
13. 山口央，森雅紀，他．Medical Staff Program 1. Supporting AYA generation cancer patients; Study through case studies . AYA 世代のがん患者とどう関わるか～事例を通して考える～． 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会．2018.7. 神戸
14. 森雅紀（司会）．シンポジウム 19: Palliative Care Up-to-date 緩和ケア Up-to-date． 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会．2018.7. 神戸
15. 森雅紀．ランチョンセミナー: 早期からの緩和ケア～最新のエビデンスと臨床での実践～．日本緩和医療学会第 1 回北海道支部学術大会．2018.8. 旭川
16. 森雅紀（座長）．ワークショップ 3: Integration of oncology and palliative care（IOP）．第 3 回日本がんサポーティブケア学会学術集会．2018.9. 福岡
17. Elgersma R, Mori M, et al. Comprehensibility, Difficulty, And Content Validity Of The Japanese Scored Patient-Generated Subjective Global Assessment. Poster presentation SUN-P260 40th ESPEN Congress. 2018.9. Madrid

18. Fujimori M, Mori M, Uchitomi Y, et al. The Effect of Eye- contact when Disclosing Prognosis to Women with Breast Cancer: A Randomized Scripted Video-vignette Study (J-SUPPORT 1601) 20th World Congress of Psycho-Oncology. 2018.10. Hong Kong
19. 森雅紀. 教育講演:臨床研究における仮説と検証～いかに JAPAN WAY を創造するか～. 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会. 2018.11. 浜松

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。